

史跡長者屋敷官衙遺跡の園名募集について

担当：歴史博物館 丸山（電話 0979-23-8615）

中津市永添にある国指定史跡「長者屋敷官衙遺跡」は奈良時代から平安時代の下毛郡役所（郡衙といいます）で、当時の税である米をおさめた16棟の倉や、火災で焼けた米が大量に出土しています。現在発掘調査をすすめている区域では、九州でも数少ない200㎡をこえる大型の建物が見つかり、地域の歴史を語る上で重要な遺跡となっています。

史跡となっている範囲は現在整備を行っています。今後、周辺の古代遺跡をふくめて「中津の古代史を学ぶ場所」として市民の皆さまに利活用していただけるよう、親しみやすい「園名」を募集したいと考えています。

また、募集期間中に古代ウォーキングイベント「ブラコダイ」を開催します。

園名募集

募集期間 10月15日(日)～11月15日(水)

応募方法 ①インターネット(<https://logoform.jp/form/GEJZ/371520>)

※10月15日より申込開始

②郵送(中津市歴史博物館 宛)

記載内容 下記の①～⑥を明記してください。

①考えた園名 ②園名の読み方 ③園名を考えた理由(思い) ④氏名 ⑤住所

⑥電話番号

*採用された人は…供用開始の式典にご招待し、遺跡の園名板の裏にお名前を記載します。
(最終候補に選ばれた人にオリジナル古代グッズをプレゼントします。)

園名のヒントに！／古代ウォーク「ブラコダイ」

－長者屋敷官衙遺跡周辺をぶらぶら歩くと、1300年前の景色が見えてくる－

日 時 10月21日(土) 10時～11時30分

場 所 長者屋敷官衙遺跡

定 員 先着15名

申 込 中津市歴史博物館(TEL:0979-23-8615)に電話

長者屋敷官衙遺跡とは

「長者屋敷」地名の由来

長者屋敷官衙遺跡という名は、この地から焼け焦げた米が沢山出土することから名づけられた地名「長者屋敷」からきています。長者の米倉が沢山あったが火事によって炭になってしまったという言い伝えが周辺の集落に伝わっていました。



炭化した米

巨大倉庫群発見

この言い伝えを裏付けるように平成7年に実施した最初の発掘調査では、古代(奈良時代～平安時代)の米倉が姿を現しました。溝や塀で区画された1ヘクタールもの広さの中に、巨大な柱穴が同じ方向をむいて16棟の大きな倉が整然と並んで建っていました。こうした姿から長者の倉などではなく、日本が国家として歩み始めた時代、地方支配の拠点として置かれた役所、古代郡衙(郡の役所)の正倉であることが分かりました。



最初の調査の様子(平成7年)

国史跡に指定

遺跡は、大分県内で唯一の正倉跡発見例であり、九州でも類例の少ない礎石建ち建物も発見されたこと、一つの区画の中の建物配置の全体像が明らかになったことが評価され、平成22年に国史跡に指定され、現在整備をすすめています。

中心施設を探して、ついに大型建物発見!

古代郡衙は「正倉」の他に、「郡庁」「館」「厨」などがあります。これらの施設を探すために周辺調査を続けてきました。そして令和4年度調査で、面積200㎡を超える大型建物を発見しました。四面に廂を持つ、格式の高い建物であることから、郡衙の中心施設であった可能性が高いものです。



大型建物を発見(令和4年)